

N F C A

小規模橋梁の簡易点検要領

事例加えた改訂版も



十河茂幸代表理事

「近未来コンクリート研究会(NFCA、十河茂幸代表理事)は2018年4月設立以来、「コンクリート構造物の高耐久化を目指して、いろいろ

な立場の技術者が議論を重ね、社会に提案すること(十河代表理事)に取り組んでいる。具体的には「初期ひび割れの抑制技術研究協議会」「構造物の延命化技術研究協議会」「生産性向上技術研究協議会」を設け、検討作業を推進。さらにコンクリートメンテナンス協会(JCMA、徳納剛会

長)と共同で「小規模橋梁の簡易点検要領(案)」を作成するなど、活発な活動を展開している。日本国内で構築されたコンクリート構造物の総量は100億と推計され、そのほとんどは戦後に建設された。築後70年に達したものをはじめ、高度経済成長期に建設されたインフラ構造物が一

斉に高齢化してきている。こうした中で同研究会は「インフラを適切に維持管理することを推進する支援をすることも」に、これから建設されるコンクリート構造物を長寿命化するための研究を行うことを目的に発足した。

【初期ひび割れの抑制協議会】発生確率の高い温度ひび割れを抑制するための設計、材料、製造、施工のあるべき姿を追求し、ひび割れのないコンクリート構造物の構築を目指す。竹田宣典(広島工業大学教授(環境土木工学科))を主査に産官学のメンバーで構成し、十河代表理事は「忌憚のない意見を交換し、目標実現を目指して活動している」と説明している。

【構造物の延命化技術研究協議会】老朽化しているインフラの増加に対して、どのようにすれば延命化が図れるか、「現状の技術を整理し、点検、診断、補修方法の在り方を議論している(十河代表理事)。主査はJCMAの技術委員長を務める江良和徳氏(極東興和)で、産官学のメンバーで議論を深め、技術の進化を目指している。

【生産性向上技術研究協議会】十河代表理事は「生産性向上の必要性が叫ばれる昨今だが、多く現場はいまだに3Kと呼ばれる状況から脱してない」とし、「生産性向上(合理的な建設)のための設計、施工、規準類の在り方を検討している」と説明。主査は、坂本英輔(広島工業大学准教授(建築工学))で、産官学のメンバーが議論し、アイデアを積み重ねている。

小規模橋梁の簡易点検要領(案)は市町村が管理する小規模橋梁の予防保全を着実に進めるために作成した。技術者不足が深刻な市町村では事務系職員が点検業務を担うケースも少なくない。同要領(案)は鉄筋コンクリート橋の主桁と床版に特化したもので、「外観では見分けが付かない段階で」橋梁の健全性を評価するポイントを解説している。

JCMAのホームページで入手可能なほか、NFCAのホームページでは「簡易版」をダウンロードできる。また事例を加えた改訂版も作成し、JCMAが各地で開催を計画している「コンクリート構造物の補修・補強に関するフォーラム2020」で報告を予定している。